

【研究内容 クラブ活動】

創意工夫を生かし、自主的に活動する子供の姿を目指して ～全校で活動を共有し合うクラブ活動の取組を通して～

宮城県大崎市立鹿島台小学校
教諭 木村 聡美

はじめに… この実践は、前任校（不動堂小学校）における令和2年度の実践になります。

1 主題設定の理由

(1) 本校の概要と児童の実態から

本校は、遠田郡美里町にある全校児童数433名の小学校である。児童会活動や1年生から6年生までのメンバーで構成される縦割り活動で、6年生を中心に様々な特色ある活動に取り組んでいる。しかし、自分から「こんなことがしてみたい。」「もっと良い活動をするためにこんなことをしたらどうか。」などの声を上げる児童は少なく、どちらかというところの活動においても教師からの投げかけで受動的に動く児童が多い印象がある。そのため、6年生を中心に子供たちが自らアイディアを出し合い、計画したことを実現できる喜びを実感させたいと考える。

(2) 本校のクラブ活動の実態から

本校では年間10回のクラブ活動（1回45分間）を設定し、5月から活動が始まり、11月に終了する計画になっている。全10回の活動の中には、顔合わせをしてめあてや活動計画を決める時間（1回目）や、3年生を対象としてクラブ活動を紹介する「クラブ活動見学会」（8回目）、クラブ活動反省会（10回目）が設定されている。4月にどんなクラブを設置したいかの希望をとる「クラブ設置に関するアンケート」と、どのクラブに入りたいかの希望をとる「クラブ希望アンケート」の2段階でのアンケートを実施し、それをもとに今年度のクラブ活動とメンバーを確定し、5月から活動をスタートさせてきた。8月にクラブ活動に関するアンケートを取ると、クラブ活動を楽しみにしている児童は全体の9割ほどに上っている。しかし「毎年活動内容が同じ。」や「試合をするとけんかになってしまう。」などという意見も少数であるがあがっており、教師主体であったり、異学年集団での活動で問題が起こったときに子供たち同士で解決せずに活動が終わったりしている現状から、自己有用感の高まりがあまり見られなかった。そのため、自分たちで活動内容を工夫したり、問題が起きたときに仲間と話し合って解決したりする自主的な活動を行わせたいと考えた。

2 実践の概要

(1) 研究目標

創意工夫を生かし、自主的に活動する子供を育てるクラブ活動の在り方を、指導の工夫を通して探る。

(2) 取組の概要

月	活動	内容
4月	・クラブ設置アンケート実施 ・クラブ希望アンケート（児童）実施 ・クラブ希望アンケート（教師）実施	・アンケートからクラブ設置・クラブ決定をする。
5月	・クラブ活動①（活動計画を立てる。）	・クラブ長、副クラブ長、書記、クラブ活動のめあて、クラブ活動の年間の活動計画を立てる。
6月	・クラブ活動②③	
7月	・クラブ活動④（1学期最終）	・活動の様子をクラブ活動掲示板に貼り出す。
8月	・クラブアンケート（児童）実施 ・クラブアンケート（クラブ長）実施 ・「クラブ長ミーティング」実施	・アンケートをもとに、クラブ長ミーティングで、どうしたらクラブ活動をより活発にできるかを話し合う。その中で、「昼の放送で紹介したい。」「ポスターや新聞を作りたい。」「ストリートライブをしてみたい。」というアイディアが出た。

9月	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動⑤⑥ ・「クラブ長ミーティング」実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子をクラブ掲示板に貼り出す。 ・クラブ長がクラブ活動通信を作成し、各学級に配布する。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・昼の校内放送で、活動の紹介 ・「クラブ長ミーティング」実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動の動画を昼の校内放送で紹介する。その際、放送委員会の協力を得る。 ・3年生のクラブ見学に向けての話合いをする。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動⑦⑧⑨⑩ ・クラブ活動体験会 ・ストリートライブ ・3年生クラブ見学（8回目） ・クラブ活動の反省（10回目） ・クラブアンケート実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ストリートライブに向けポスター作成をする。 ・クラブ活動の反省では、次年度に活かせるアイディアを出し合う。 ・児童の変容を見取る。

(3) 研究の視点と指導方法の工夫

視点1 クラブの様子をお互いを知る・知らせる働きかけ

- ① クラブ活動掲示板を活用した活動内容の周知
 - ・各クラブの年間の活動計画を知る。
 - ・次回の活動内容や持ち物を知らせる
 - ・クラブ活動の様子を写真で紹介する。
 - ・作った作品を展示する。
- ② 昼の校内放送を活用したクラブの活動紹介
 - ・実際の活動している様子をビデオ撮影し、昼の放送で全校に紹介し合う。
 - ・他のクラブがどのような活動をしているか、児童や教師が知り、来年度のクラブ活動決定の参考にする。
- ③ クラブ活動通信の発行
 - ・全学級、職員へクラブ長が配付しに行くことで、クラブ長の自覚を高める。
- ④ 業間休みを利用したストリートライブ活動
 - ・クラブ活動を通して練習してきた成果を、業間休みを利用して披露し、校内生活を豊かなものにする。
 - ・発表の機会を通し、子供たちの自己有用感を高める。

視点2 クラブ長の意識を高め、クラブ活動をよりよくするために自主的に活動させる働きかけ

- ① クラブ長ミーティング
 - ・クラブ長同士で悩みを分かち合える場づくりにする。
 - ・異学年がより良く関われる工夫の話合いを毎クラブ活動終了後の15分間で継続的に行う。
 - ・クラブ長ミーティングで出た意見をもとに全体の取組を計画していく。

視点3 学校全体でクラブ活動を盛り上げる働きかけ

- ① 委員会活動や全校児童とのコラボ活動
 - ・放送委員会が昼の校内放送でのクラブ紹介をサポートする。
- ② クラブ自主イベントの開催
 - ・休み時間を利用したクラブ体験会を企画し、活動を充実させる。

(4) 活動の様子

① クラブ活動掲示板



他のクラブ活動の様子を知る良い機会となった。



多くの学年の児童が普段利用する廊下に掲示板を設置したことで、4～6年生以外にも、多くの児童が足を止めて見ている様子が見られた。

② 昼の校内放送を活用したクラブの活動紹介



テレビ放送を見つめる3年生の教室

放送委員会が紹介をサポートしている様子



「委員会は活動紹介の時間があるけど、クラブ活動は無かったからやってみよう」という6年生の声から計画した。普段自分の所属するクラブ活動以外は見ることがないので、興味深くテレビを見ている様子が見られた。協力してくれた放送委員会も新たな取組として意欲的に活動していた。

③ クラブ活動通信の発行



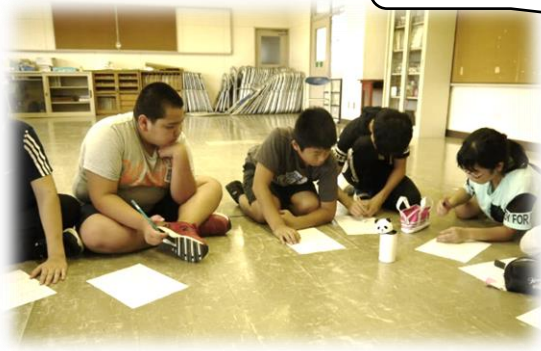
クラブ長としての役割を果たすことで自己有用感を高めた。



1回のクラブ活動通信で、2クラブずつ紹介した。活動のめあて、活動内容、全校に向けて一言、活動中の写真という構成で発行した。また、クラブ長ミーティングで話し合ったことや、昼の校内放送の予告なども盛り込んだ。配布はクラブ長が行った。

④ クラブ長ミーティング

「今日の活動はどうだった？」から、自分たちで話し合いを進めていた。



クラブ活動終了後には毎回集まって、「今日のクラブ活動はどうだった？」という問いかけに、次々によかったことやその時困っていることを話した。自分たちでホワイトボードに大切な言葉を書き出し、「次回はどんなクラブ活動にしたいか」「そのためにどうするか。」も出し合った。そのうち、クラブ活動ミーティング以外の時間にもクラブ活動担当に相談に来るようになった。

⑤ クラブ主催のイベント開催

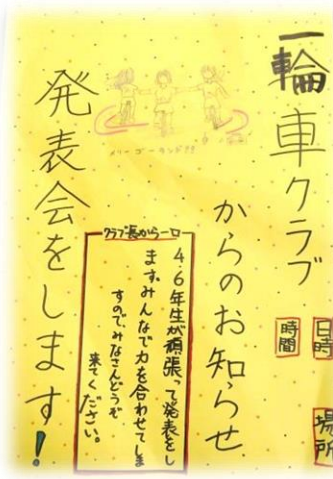
企画書		
_____ クラブ		
1.内容		

2.目的(なぜやりたいと思ったか。)		

3.日時		
_____ 月 _____ 日		
4.生徒数		

5.気を付けること		

_____	_____	_____



当日は呼びかけの甲斐あって、業間休みにたくさんの児童が体育館に集まった。



クラブ活動体験会をしようと考えたクラブは、企画書を作り提出した。担当が安全性を確認した上で実施させることにした。自分たちが考えた計画が実現する喜びを感じさせるための取組となった。

3 成果と課題

(1) 成果

- 視点1：掲示板を見て次回の活動の確認をしたり、友達の活動の様子を知ったりすることで、掲示板を中心に年間のクラブ活動を運営することができた。
- 視点2：よかったところ、悩んでいるところ、クラブ活動を盛り上げるための工夫点などを、クラブ長同士で創意工夫し、次の取組に繋げる姿が見られた。
- 視点3：業間休みや昼の校内放送の時間を有効に活用して、クラブ活動を盛り上げることができた。

(2) 今後の課題

- 視点1：掲示板の貼り出しをクラブ活動担当が主となって行ってきたが、自分たちのクラブをより自主的に運営する気持ちを持たせるためにも、クラブ長の役割とすることも考えられる。
- 視点2：次年度は、クラブ長だけでなく、4～6年生全体の主体性を高めるための働きかけをしていく必要がある。
- 視点3：クラブ活動紹介を放送委員会がサポートしたように、年度当初から計画を立てていけば様々な委員会とクラブ活動のコラボ活動が考えられる。